

環境省九州地方環境事務所請負業務

平成 22 年度

持続可能な社会づくりを担う事業型環境 NPO・社会的企業中間支援スキーム
事業のモデル実証事業

業務報告書



平成 22（2010）年度

特定非営利活動法人 宮崎文化本舗

第 3 章 ビジネスモデルの事業計画

(1) 実施スケジュール

今回のモデル実証事業を下記のようなスケジュールで実施した。

	年 月	スケジュール
H22 年 9 月	9 月 12 日/27 日 9 月 12 日	・「商品開発について」打合せ(9/12、9/27) ・1回目試作品製作 ・木工所見学(9/7 伊東ロクロ工芸 9/15 工房けいかお 9/30 高原工芸)
10 月	10 月 7 日 10 月 9 日～10 日 10 月 14 日 10 月 20 日 10 月 28 日	・2 回目試作品製作 ・試作品展示(全国街づくり会議 2010 in 熊本) ・第 1 回検討会「商品開発・事業計画について」 ・アドバイザー事業説明 ・3回目試作品製作 ・打合せ「事業計画・マーケティング調査について」
11 月	11 月 6 日～7 日 11 月 19 日 11 月 26 日 11 月 29 日	・試作品展示アンケート「森のめぐみのこども博」(東京) ・打合せ「試作品の改善点について」 ・第 1 回全国連絡会(事業計画検討会、東京都) ・Y工芸打合せ(カタログ販売業)
12 月	12 月 1 日 12 月 10 日 12 月 28 日	・打合せ会議「試作品の意見取りまとめ」 ・第 2 回検討会・マーケティング調査 ・4 回目試作品製作
H23 年 1 月	1 月 5 日 1 月 8 日～9 日 1 月 10 日 1 月 29 日～ 2 月 13 日	・会議「販路リサーチのやり方について」 ・試作品展示アンケート「おもちゃキャラバン会場」(宮崎) ・S産業打合せ ・試作品展示「高木兼高展」(みやざきアートセンター)
2 月	2 月 3 日 2 月 4 日 2 月 21 日	・5 回目試作品製作 ・第 3 回検討会 ・第 2 回全国連絡会(事業計画発表会、東京都)
3 月	3 月 9 日	・第 4 回検討会 ・報告書の作成

(2) 地域課題

- ・ボランティアによる間伐作業で間伐した材の有効利用
- ・自主財源の確保
- ・「てるはの森の会」部門の独立

(3) 事業概要

- ・間伐材を利用した木工品の開発・試作品の製作
- ・試作品販売動向のマーケティング調査
- ・販路確保のためのリサーチ

(環境保全面の目標値)

- ① 年間 5 m³ (正味 3 m³) の木材利用
- ② 間伐材利用の道

(財政改善面の目標値)

- ① 500 万円の売り上げ。(平成 28 年度)
- ② 正規職員 3 人の雇用

(4) 目的を達成するための鍵

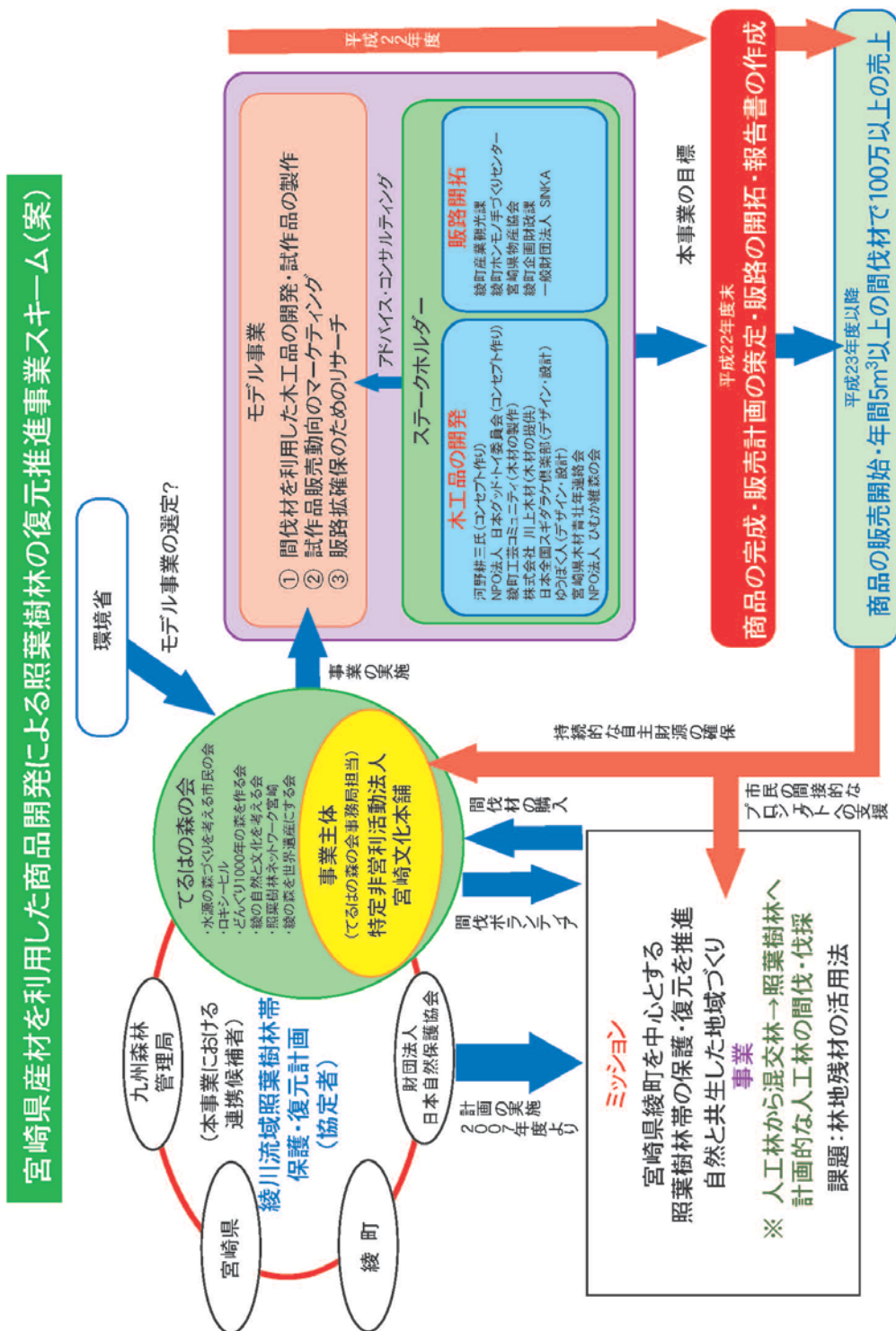
- ・商品を具象化できるデザイン力
- ・間伐材利用の道筋
- ・販路の開拓

(5) 組織概要

法 人 名	特定非営利活動法人 宮崎文化本舗		代表者名（役職名）	石田 達也（理事長）
所 在 地	〒880-0805 宮崎市橋通東3丁目1番11号 アゲインビル2F		電話	0985-35-7288
			FAX	0985-35-7289
ホームページ	http://bunkahonpo.or.jp		e-mail	shimomura@bunkahonpo.or.jp
組織体制	役 員	6 名	会 員	602 名
	専従者（従業員）	35 名	ボランティア	20 名
	パートタイム	1 名	そ の 他	名
これまでの環境活動の実績	創 立 年	平成 6 年	・照葉樹林ガイドボランティア実践事業 ・照葉樹林ガイドボランティア養成講座開催 ・「綾の照葉樹林プロジェクト推進協議会」の事務局人材派遣 ・「照葉樹林の回廊構想啓発事業」の企画・運営 ・「綾の照葉樹林ネットワーク」の事務局運営	
	法人設立年	平成 12 年		
	・宮崎県地球温暖化防止活動推進センター補助事業（宮崎県・環境省）			
	・宮崎青島地区における環境プログラム開発・実践事業（erca 助成）			
	・森林づくり活動支援事業（森林環境税活用）			
		・照葉樹林文化シンポジウム照葉樹林研究フォーラム開催協力		
過去に受けた助成金・補助金等の内容 （単位：千円）	時 期	対象事業	交付機関・制度名	金 額
	21 年 6 月	森づくり活動支援事業補助金	宮崎県	337.500
	21 年 6 月	日南市北郷町森林ガイド養成講座	宮崎県日南市	1,500,000
	22 年 6 月	地球温暖化防止活動推進普及啓発事業	九州環境事務所	3,500,000
直近2期分の決算状況（単位：千円） （注1）	決算期	収 入	収支差額	正味財産（注2）
	平成21年3月期	21,427,820	-1,346,903	2,612,139
	平成22年3月期	312,896,337	1,462,680	4,074,819

(6) 組織図

2010/JUNE/20
特定非営利活動法人 宮崎文化本舗



(7) 私たちの強み

- ・クラフト作家・地元業者（製材所）の協力・支援
〈試作品の製作やアイデア・助言をいただき助かった〉
- ・「ユネスコエコパーク綾」の使用 〈今後活用していきたい〉
- ・環境付加価値（森づくり支援の明記 パンフレット案参照）



綾町クラフトマップ（綾町役場ホームページ）

(8) 活動実績

2005 年綾の照葉樹林プロジェクトが始まる。現在活動し、6 年目を迎える。
民間団体として、官民協働プロジェクトの事務局を担っている。

平成 20 年綾プロジェクト事業報告書 31 事業 51P 公開
<http://www.teruhanomori.com/hopukokusixyo.pdf>

平成 21 年綾プロジェクト事業報告書 38 事業 62P 公開
<http://blog.canpan.info/teruha/img/201/2009houkoku.pdf>

(9) 地域・協力者の期待・ニーズとの整合性

プロジェクト協定者を始め、関係者の協力関係は築かれている。

森づくり活動支援という付加価値を付けた県産材・間伐材による商品開発が待たれている。

[協力者リスト]

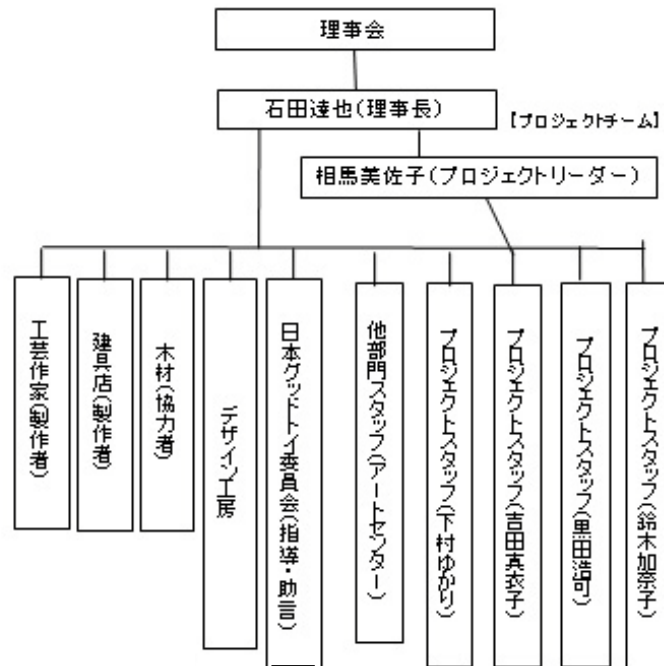
ア. 連携団体

団体の名称	所在地	業務等	備考
特定非営利活動法人 日本グッド・トイ委員会	東京都	東京おもちゃ美術館	指導・助言
A 工芸	宮崎県綾町	工芸作家	試作品製作
(株)川上木材	宮崎市	製材所	指導・助言 材料提供
D デザイン工房	宮崎市	デザイン工房	デザイン制作
Y デザイン工房	宮崎市	設計士	指導・助言
Y 建具店	宮崎市	建具店	試作品製作
Y 工芸	大分県別府市	業務用カタログ販売	販売法相談
S 産業株式会社	長野県塩尻市	木製品教育教材販売	指導・助言
T 総研	福岡市	イベント業	デザイン制作
宮崎アートセンター	宮崎市	町なか美術館	試作品使用

イ. プロジェクト協定者

氏名・名称	住所	備考
九州森林管理局	熊本市	国有林地権者
宮崎県	宮崎市	県有林地権者
綾町	宮崎県綾町	町有林地権者
(財)日本自然保護協会	東京都	間伐方法助言

(10) 実施体制



(11) ターゲット

- ・官公庁、環境保全団体・環境意識の強い消費者

(ペルソナ設定の考察)

具体的な消費者を想定したことで、計画に具体性が持て、その後の計画を立案しやすくなった。

例 1：NPO 法人が、団体の活動紹介のために木製パネルとスタンドを購入するシーン

福岡市で活動している NPO 法人 A は、福岡市 NPO 支援センター主催の「NPO フォーラム」で活動事例のポスター発表を予定している。

日頃から、環境配慮型商品を使い、活動している。先日の環境イベントで見た木製パネルとスタンドは、女性でも容易に組み立てられ持ち運びが簡単で、自家用車で運搬できる点が気に入った。ポスターの展示とチラシの配布を 1 つのスタンドで行える点も使いやすそうだ。

木製パネルとスタンドそのものも人目を引き、団体活動により関心をえられるのではないかと考えて、購入してみようと思う。

例 2：一般ユーザーが木製パネルの購入を計画するシーン

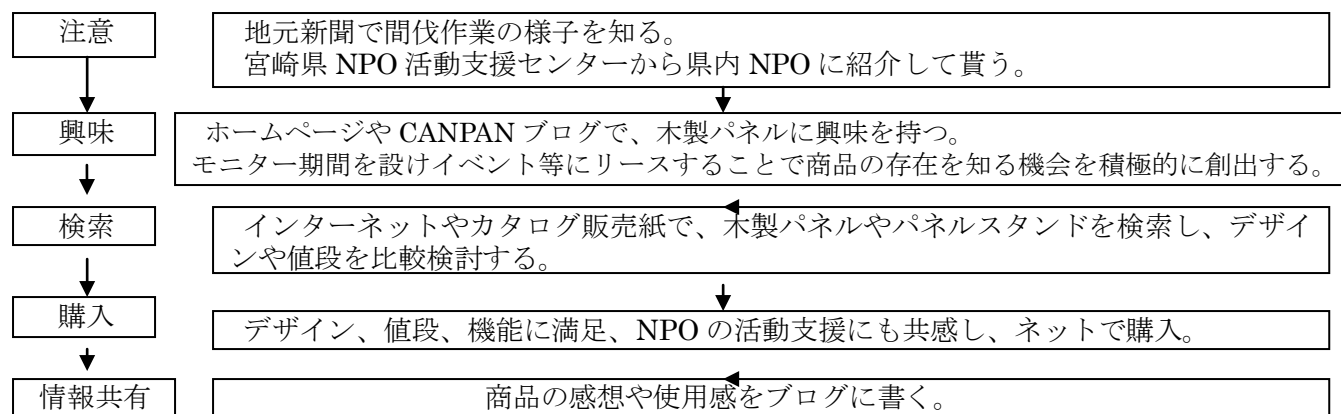
山村綾子（35 歳）は宮崎市に住む主婦。

この春、新居を木造で新築予定である。新居のインテリアに似合う木製の額を探しているが、画廊では大変高価で購入を諦めかけていた。

地元紙「宮崎日日新聞」で、森の団体が木製パネルを製作販売するという記事を見つけた。詳細情報を調べるために団体のホームページを見て、手頃な価格が気に入って、購入することに決めた。試しに購入して気に入れば、あと数枚ほしいと思っている。

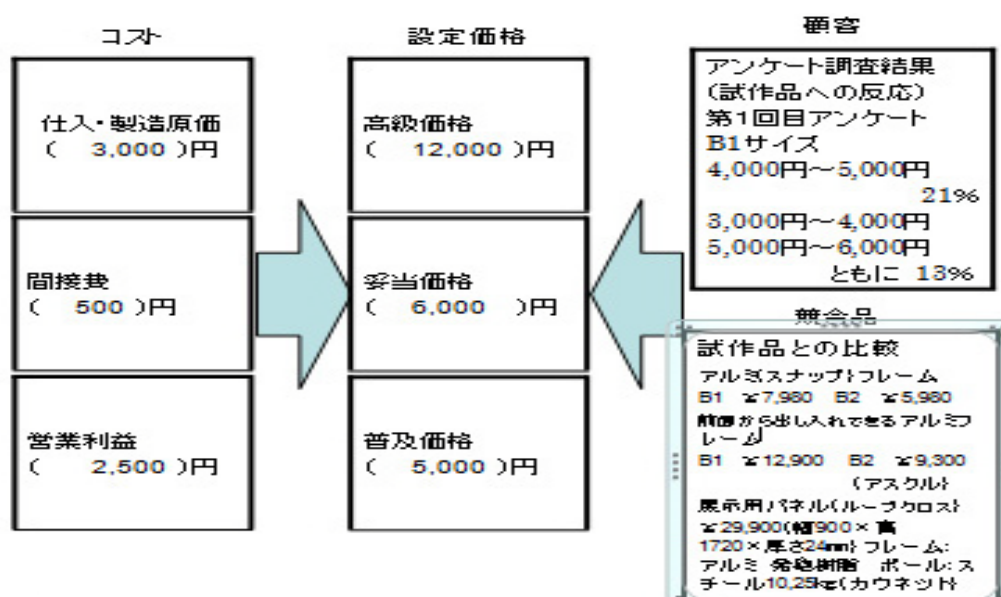
この商品を買うことが、宮崎県綾町の森林保護活動を支援できることも気に入っている。

(12) 広告・販売計画



(13) 価格計画

既存品との比較、アンケート結果を考慮して、価格を決定した。



(14) 資金計画

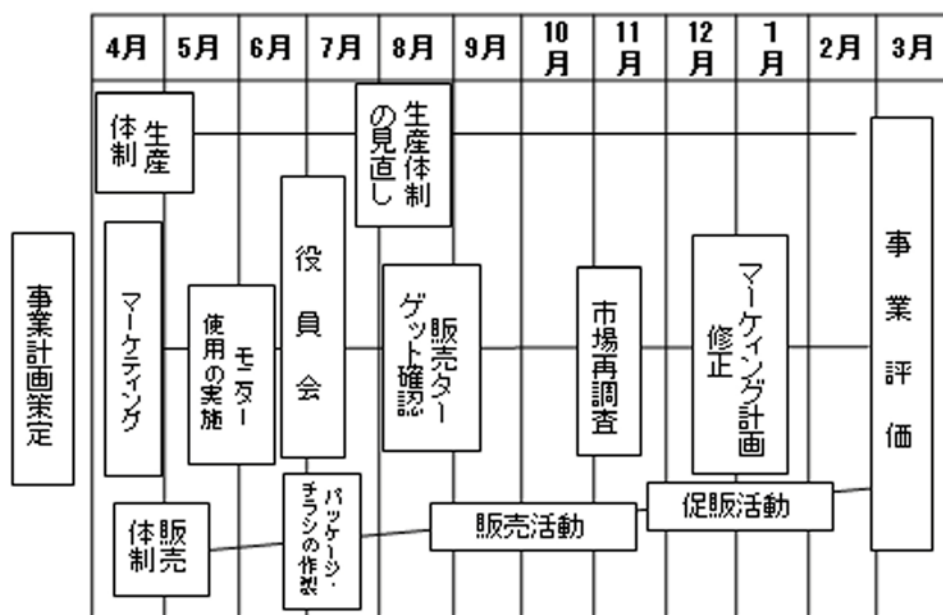
必要資金		金額	調達方法	金額
運 転 資 金	商品原価	72 万円	自己資金	100 万円
	給与手当	31 万円	寄付金	20 万円
	減価償却費	3 万円	支援者等からの 借入 (内訳・返済方法)	0 円
	雑費	2 万円		
	その他販売管理費	12 万円		
設 備 資 金			金融機関からの 借入 (内訳・返済方法)	
合 計		120 万円	合 計	120 万円

(15) 収支計画

科目	1 年目	2 年目	3 年目	6 年目
売上高	120 万円	150 万円	200 万円	500 万
売上原価 (原価率)	72 万円 (60%)	75 万円 (55%)	100 万円 (50%)	250 万円 (50%)
売上総利益	48 万円	67.5 万円	100 万円	250 万円
給与手当	31 万円	40 万円	62 万円	168 万円
減価償却費	3 万円	3 万円	3 万円	3 万円
雑費	2 万円	3 万円	5 万円	5 万円
その他販売管理費	12 万円	16.5 万円	20 万円	24 万円
販売管理合計	48 万円	62.5 万円	90 万円	200 万円
経常利益	0	5 万円	10 万円	50 万円
損益分岐点売上高	120 万円	145 万円	190 万円	200 万円
経常利益率	0%	3%	5%	10%

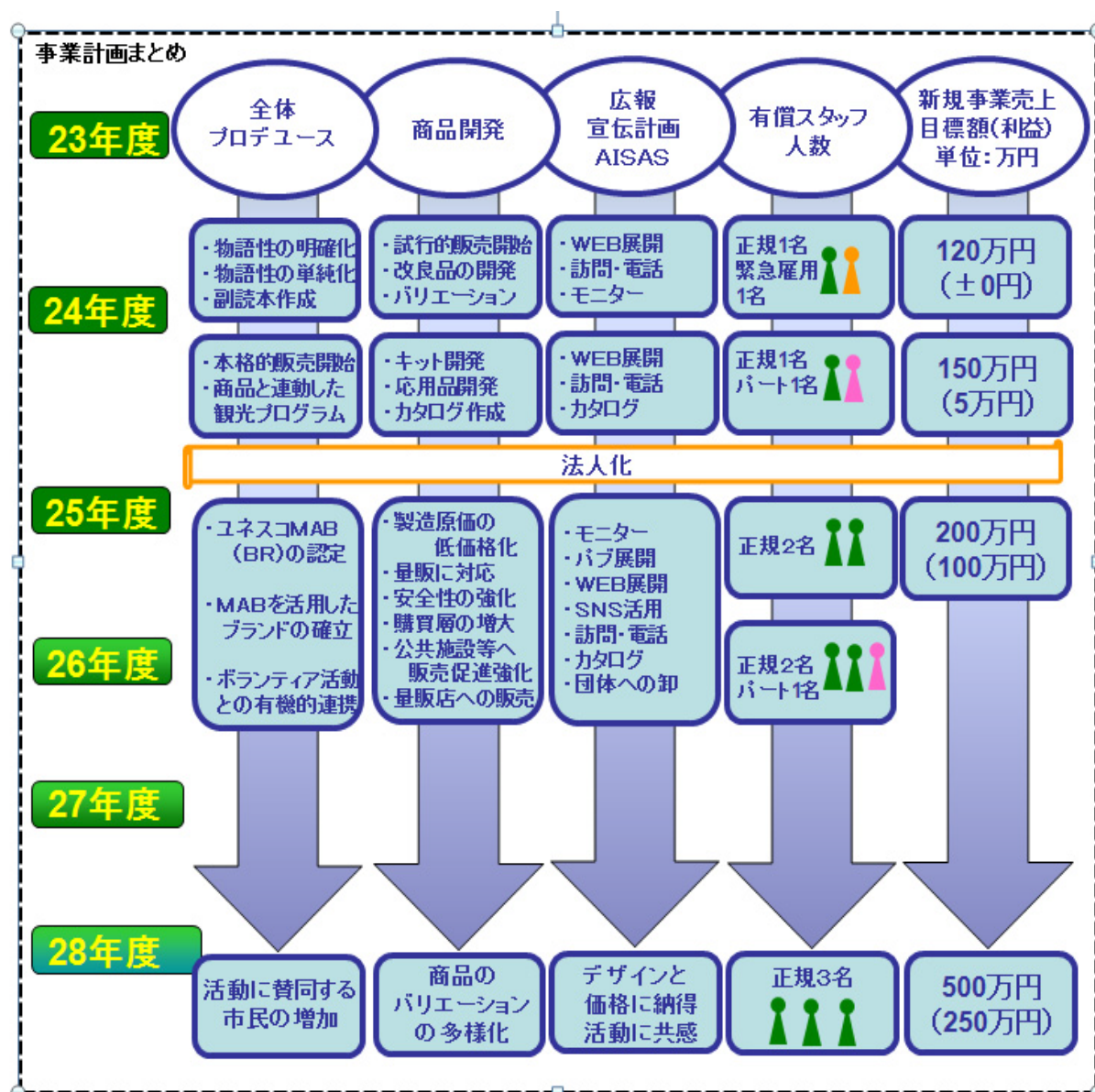
(16) 今後のスケジュール

・ 23 年度スケジュール



23 年度～28 年度の実施計画

来年度 23 年度～5 年間（28 年度）の実施計画を作成した。全体プロデュース、商品開発、広報宣伝計画・スタッフ人数、事業売上目標額(利益)について目標値を掲げ、計画の遂行をはかる。



(17) 全国連絡会の概要

① 第 2 回連絡会（中間報告会）開催結果報告

会議名	第 2 回全国連絡会
開催日時	2010 年 11 月 26 日 場所：地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）
出席者	事務局（石田、下村）
議題	商品開発について

1 第 2 回連絡会で出された課題	
課題	採択団体の方針
①製品製作をパネルで進めるには大量に生産し販売する必要がある。	①・他事業で冠婚葬祭カタログ作成を進めており、全国へ発信できる販売ルートはある。 ・販売コストを抑えるため工場製作にするか検討する。 ・パネルとあわせてディスプレイ枠も製作したい。サイズの幅も広げる。 ・BR 指定の町づくりと絡めて PR する。
②間伐材を使用する量が少ない。	②間伐した細い枝を使ってキーホルダーをつくるキット「もっくん」の製作を今後検討する。
③綾ブランドを活かして大手メーカーと手を組む	③・第 2 回検討会で委員の方々と検討する。 ・綾の森を象徴する焼印を押すことを検討中。
④地元根ざしたマーケット	④第 2 回検討会で委員の方々と検討する。
2 第 2 回連絡会を踏まえて採択団体が抽出した課題	
課題	採択団体の方針
①ディスプレイキットを完成させる。	①試作品を現在製作中。
②サイズの幅を広げる。	②どのサイズを製作するか検討する。
③販売コストを抑える。	③・製作依頼先を検討中。 ・製品の素材、価格帯について検討中。
④「もっくん」の工作キット作成。	④・ネーミングや製作工程などを第 2 回検討会で検討する
⑤連絡会で出された課題について検討委員の方々と検討する。	⑤12 月 10 日 10 時より第 2 回検討会を開催する。

②第 3 回連絡会（事業計画発表会）開催結果報告

会議名	第 3 回全国連絡会
開催日時	2011 年 2 月 21 日 場所：地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）
出席者	事務局（石田、相馬、下村）
議題	商品開発について

1 第 3 回連絡会を終わって確認した課題

- 目標額を売るための仕組みづくり。
- 具体的な販売数字、販売先などの裏付けを明記すること。
- てるはの森の会の独立について深堀すること。
- 何ヘクタール利用できるのか。
- 具体的に、どれくらい製品を作るとどれくらい森の活動に還元できるのかを明示する工夫。
- 製品自体回転させるものではない点をどう克服するのか。
- 販売を通した活動のメッセージを浸透させる。
- 焼印をつくってはどうか。
- てるはの森の会がなぜその製品をつくっているのか、購入者がわかるようにする。

2 上記 1 の課題を踏まえた今後の行動計画

- 間伐地の材利用のやり方。
(何ヘクタール、搬出は誰がするか、そのコストは… 等)
- 焼印の開発（てるはの森の会 ロゴマーク作成）
- てるはの森の会がなぜその製品をつくっているのか購入者がわかるようなものを作成し、製品に添付する。

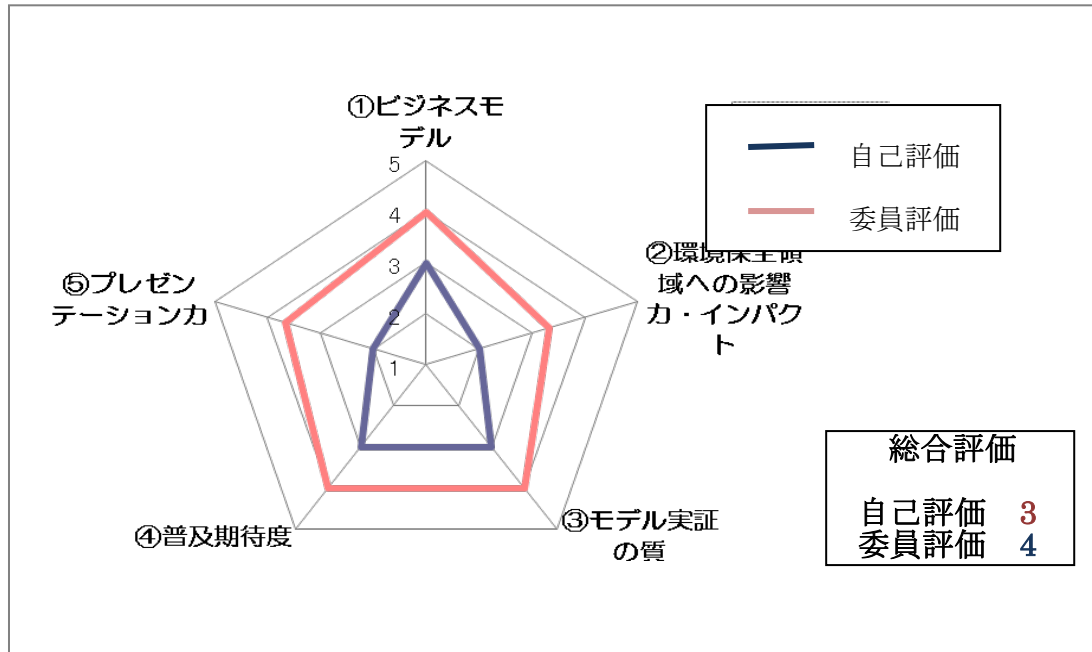
3 本事業についての感想

本事業で試作品を検討する中で、木製パネルの需要があることが実感できた。今後はいかに持続的に販売数や生産数を維持していくか、検討する必要がある。

てるはの森の会の独立に向けて、パネル販売事業を今後どのように運営・展開していくのか、以前よりも具体的に検証することができた。木製パネルだけでなく、スタンドを開発できたことが本事業の成功につながると思う。

(18) 事業の評価

第 3 回連絡会 評価シート集計



評 価	4 点
委員のコメント	
1、事業等の評価	
家具などの活用モデルが多い中、フレームは新しい試みだと思しますので、今後エコプロ等の大規模イベントの使用で販路を広げてほしい。 インパクトの大きさの見える化が必要。 売り先のシュミレーションが必要。 ④は、これを作っていく過程を普及させることは可能だと思う。設問の意図がそれなら 5 点 価格が安いという点で、ビジネス性を感じました。プレゼンテーションから熱意が伝わってきました。 森の再生（光合成）と林地残材の問題解決に期待する。	
2、参考評価	
なし。	
3、総合評価	
商品説明が多くなってしまったため てるはの森の保全関連のアピールをお願いします。 常用の設備などにも利用できるニーズがでるのではないかと思います。 植林しない復元方法という言葉のインパクトがあった。 これは買いたい。	

(19) 事業のまとめ

①全国連絡会を振り返って

第 2 回全国連絡会では、「①製品製作をパネルで進めるには大量に生産し販売する必要がある。」 「②間伐材を使用する量が少ない。」の意見をいただいた。この意見を参考に、大量生産販売に対応するためにカタログ販売業者とコンタクトをとり、販路を拡大することとした。②の意見の間伐材量については、ボランティアで行っている切り捨て間伐材の有効利用を強く訴え、本事業の地域課題である「てるはの森の会」部門の独立の意義を明記したものを添付して、商品価値を高めることで、理解をいただきたいと考えている。また、貴重な意見をいただいたことで、事業の問題点が明瞭になり、その後の事業計画に反映することが出来た。

2 月に行われた第 3 回全国連絡会での意見の具象化については、環境影響の具体的明示の仕方（この商品は何本で間伐材作られている等）を工夫し、てるはの森の保全関連アピールのためのパンフレットの中で分かりやすく解説していくよう、パンフレット案とロゴ案を作製した。これを完成させ、環境付加価値について広く広報していく計画である。

2 回の全国連絡会のために資料や事業計画を作製したことで、事業のフィードバックや販売計画見直しを行うことが出来た。報告や事業計画等の資料作製は容易ではなかったが、大変勉強になった。

また、アドバイザー委員や多くの方のサポートがあり、本事業が遂行できたことに、感謝するものである。

②全体を通して

木製品は多種多様な商品が巷に出回り、市場としても出尽くした感がある。

その難しい状況の中で、幾度も試作品を製作し改良を重ね、木製パネルとパネルスタンドを試作するに至った。スタンド一つで、ポスター展示、チラシ陳列、文房具の仮置きスペースを兼ねることが出来る。かなり、完成度の高い商品が開発できた。

今後は、出来上がった商品の耐久性等を検証し、モニター販売による広報に力を入れ、実際に販売を行うことが求められる。

現在 2～3 ヶ所から、すでに購入希望が寄せられ、将来が有望である。

また、事業遂行問題点の 1 つであった、間伐材の利用も、検討委員から綾町有林の間伐材の提供（県道に近く、ボランティアによる搬出が可能）の提案があり、実現ができそうな見通しが立った。

検討委員の方々から今後もアドバイザーグループとして支援したいと、申し出があり、今後も貴重なアドバイスがいただけることとなった。

商品と材料、支援の 3 つが揃い、今後の展開が楽しみである。

今後は安定した商品の提供と販売網の整備が急務であると共に、利便性向上のために、商品運搬のための箱の試作品も改良して、商品価値をより高めて販売を始める予定である。

第 4 章 月次報告

月次報告

月次報告は、平成 22 年 9 月から 23 年 2 月まで 6 ヶ月分を取りまとめました。内容は下記の通り。

(1) 月次報告（平成 22 年 9 月活動分）

採択団体が記入					
活動状況（会合、作業、交渉など） ＊アドバイザー委員との相談は必ず記録する。			進捗状況判断	課 題	対応方針
日付	内容	担当者			
9/7	木工製作所見学 （伊東ロクロ工芸：宮崎市）	相馬、下村	試作品のデザイン依頼 （デザイナー参加）	木製パネル・パネル展示台	試作品製作を依頼するが 良い返事貰えず。
9/12	第 1 回試作品検討会	石田、相馬、 下村			デザイン案の提示
9/15	木工製作所見学 （けいかお：都城市） 第 2 回試作品検討会	相馬、下村			
9/27	第 1 回検討会日程調整	石田、相馬、 下村	デザインの練り直し （デザイナー・製作者参加）	各委員の日程調整	1 回目の試作品依頼
9/28	製作現場打合せ	相馬			現場での試作品手直し依頼
9/30	第 1 回検討会案内送付	石田、相馬、 下村 相馬	作品の手直し		第 1 回検討委員会 10 月 14 日

(2) 月次報告（平成 22 年 10 月活動分）

採択団体が記入					
活動状況（会合、作業、交渉など） ＊アドバイザー委員との相談は必ず記録する。			進捗状況判断	課 題	対応方針
日付	内容	担当者			
10/7	試作品出来上がり A0 サイズ 2 枚	相馬、下村	2 回目の試作品完成	改善点あり（背部突起・掲示のための工夫必要）	改善点を制作者に伝える。
10/9～10	試作品展示（木製パネル） （全国まちづくり会議 2010 会場）	石田、相馬、		壁に掲示する方法を考える。	価格への質問あり。
10/14	第 1 回検討会	石田、相馬、下村	委員全員出席	作品を一つに縛らず、いくつかの計画を進めるべきとの提言。	展示物以外の製品を考える。
10/15	改善点を含む試作品依頼	相馬			改善点を伝える（背部突起・掲示のための工夫）
10/20	アドバイザー報告 綾町見学	石田、相馬、下村	現場状況の説明	綾町の物語性が必要。	
10/28	試作品出来上がり B0、B1 サイズ各 1 枚	相馬、	3 回目の試作品完成	改善点は改良されていた。	重さと価格について検討すべき。

(3) 月次報告（平成 22 年 11 月活動分）

採択団体が記入					
活動状況（会合、作業、交渉など） *アドバイザリー委員との相談は必ず記録する。			進捗状況判断	課 題	対応方針
日付	内容	担当者			
11/6～7	試作品展示（木製パネル） （森と恵みの子ども博） 東京おもちゃ美術館	石田、下村	アンケート実施 木製キーホルダーの製作ワークショップ開催。	販売価格等のアンケートを実施。 木製キーホルダーの販売要望あり。	アンケートの結果をまとめる。 木製キーホルダーキットの販売検討開始。
11/8	見積書・月次報告の送付	相馬、			
11/12	連絡会出席者の送付	相馬、			
11/17	契約書送付	下村			
11/16～19	連絡会資料作成	相馬			
11/18	アンケートまとめ	下村	川上木材担当者同席	アンケート結果にはかなりのばらつきがある。 重さ・厚さの改善が必要。	図に表記して説明し、もう一度試作品を製作依頼することにする。
11/19	打合せ・連絡会資料送付	石田、相馬、下村			
11/22	試作品依頼	相馬、			
11/26	連絡会出席	石田、下村			
11/26	第 2 回検討会日程調整 第 2 回検討会案内送付	相馬 相馬			
11/29	カタログ販売会社訪問（大分）	石田	別添で報告書送付の予定 12/10 開催予定 委員全員出席の返事あり。	アンケート結果を踏まえ改善点を伝える。	製作会社をあたる。
	試作品受取	相馬、下村	掲載の可能性あり。 重さ・厚さが改善されている。		
				商品の完成度や製作方法を検討する。 商品価格の検討が必要。	

(4) 月次報告（平成 22 年 12 月活動分）

採択団体が記入					
活動状況（会合、作業、交渉など） * アドバイザー委員との相談は必ず記録する。			進捗状況判断	課 題	対応方針
日付	内容	担当者			
12/1	打合せ	石 田 、 相馬、下村	試作品第 4 作目の改善箇所の検討（川上木材同席） 会議資料の準備	価格・耐久性・重さの改善の必要あり。	製作を木工作家から建具店に変更。 10 本単位で製作。軽くする工夫。 （裏板をアルミ複合板からベニヤ板に変更。アクリル板の厚みや留め具の耐久性の検討。）
12/2	第 2 回連絡会報告書送付	下村		販売ルートや製作コスト・森のストーリーの検討が必要。	綾の森のストーリー（付加価値）を考える。
12/9	第 2 回検討会の準備	相馬、下村			前回議事録・連絡会報告の準備
12/10	第 2 回検討会	石 田 、 相馬、下村		販売ルートや製作コスト・森のストーリーの検討が必要。	綾の森のストーリー（付加価値）を考える。
12/27	アンケート内容について検討	相馬、下村		価格・印象・用途・改善点についての設問	回答しやすい設問設定を考える。
12/28	試作品完成・検討会	石 田 、 相馬、下村		価格を抑えるため、アクリル板をガラスに変更。	重さと安全性からアクリル板に変更指示し、試作品 10 本の製作依頼

(5) 月次報告（平成 23 年 1 月活動分）

採択団体が記入					
活動状況（会合、作業、交渉など） *アドバイザー委員との相談は必ず記録する。			進捗状況判断	課 題	対応方針
日付	内容	担当者			
1/5	打合せ（アンケートについて）	相馬、下村	アンケート内容の検討	一般消費者用とパネル使用者用の 2 種を準備	回答しやすい設問設定を考える。
1/8～9	アンケート実施	相馬、下村、黒田、鈴木	木育キャラバンイベントで行うと協力が得やすい。	一般 100 名からのアンケートをいただく。	試作品 10 本を展示し、アンケートを実施する。
1/10	販売方法の助言	石田、相馬、	S 産業から助言あり。今後協力をお願いする。	販売ルートや価格・印象・用途について助言をお願いする。	今後、先発の木製教育玩具販売メーカーに見学に行き、直接助言をもらう。
1/11	月次報告の送付	相馬、			
1/18	第 3 回検討会日程調整	相馬、下村	出席委員が 2 人のため、再度調整が必要	2 月前半の予定多忙のため、委員の出席が難しい。	
1/26	第 3 回検討会日程再調整	相馬、下村	再調整		
1/28	第 3 回検討会案内送付	相馬、下村	2/4 開催予定（4 人出席予定）		

(6) 月次報告（平成 23 年 2 月活動分）

採択団体が記入					
活動状況（会合、作業、交渉など） ＊アドバイザー委員との相談は必ず記録する。			進捗状況判断	課 題	対応方針
日付	内容	担当者			
2/2	試作品納品（パネルスタンド）	相馬、下村	かなり良いものが出来た。	持ち運びについて検討が必要。 前回議事録等準備	キャスター付き包装の開発
2/3	検討委員会資料準備	相馬、下村	3/9 開催予定 （5 人出席予定）		
2/4	第 3 回検討会	石田、相馬、 下村 EPO 澤氏	販売ルートやモニター販売の提案。材料やコスト	付属品（タイトル・天板・チラシ棚）の開発	付属品（タイトル・天板・チラシ棚）を試作する EPO 澤氏の助言を受ける。
2/7	スタンド付属品発注	相馬、川添 委員	付属品について検討の余地あり。 タイトル・天板・チラシ棚発注		
2/11	事業計画書検討会	石田、相馬、	詳細打合せ		
2/14	事業計画書送付	相馬、			
2/21	第 2 回連絡会（東京）	石田、相馬、 下村	発表	販売方法や価格、パッケージ、環境付加価値の広報方法の検討が必要。	
2/25	第 4 回検討会日程再調整	下村			4 回目の検討会を開催する。
2/28	第 4 回検討会案内送付	下村	試作品の完成披露と問題点の検討	販売方法や価格等も問題点を話し合う。	

参考資料

写真データ

第 1 回試作品 9.12



木目を生かしたランプ

第 2 回試作品 10.7



木ねじの改良が必要



ワークショップ用「モックくん」キーホルダー

第 3 回試作品 10.28



改良点(裏面木ねじ)



第 4 回試作品

12.9



改良点(裏面木ねじ)



第 5 回試作品 12.28



第 6 回試作品 (展示スタンド) 2.3



新聞記事

(宮崎日日新聞 2010.8.31)

宮崎文化本舗
2010年8月31日
間伐材使い製品開発

環境省モデル事業選定



環境省が公募していた自然資源を活用・保全するモデル実証事業に、宮崎市のNPO法人「宮崎文化本舗」(石田 達也理事長)が申請した間伐材を中心とした木工製品の開発・販売事業が選ばれた。同法人は、官民5者で綾の照葉樹林を保護・復元する「綾の照葉樹林プロジェクト」(綾プロ)の事務局・てるはの森の会を運営。事業収益で運営基盤を強化し、間伐材の有効利用につなげたい考えだ。

2005年から始まった綾プロでは、スギなどの人工林を間伐して日光が地面に届くようにし、動物や風が運んでくる照葉樹の種の自然な芽吹きを促す取り組みを続けている。ただ、民間ボランティアが間伐を行った間伐材は搬出コストがかかることもあり、そのまま放置され、利用が進んでいないという。

同法人はこの課題を解決するため、事業に手を挙げることにした。来月にも間伐材を使ったインテリアグッズなどの開発をスタート。来年3月までに製品開発や販売計画の作成などを終え、来年度から売り込みを始める計画。モデル実証事業に選ばれたことで、環境省から補助金が出るほか、専門家のアドバイスが受けられる。

石田理事長は「間伐材を生かす仕組みづくりを進めて、綾プロの活性化にもつなげたい」と話していた。

間伐後、そのままに放置されているスギ。宮崎文化本舗の事業では有効利用につなげたい考え(てるはの森の会提供)

新聞記事

(朝日新聞 2010.10.11)

2010.10.11 朝日新聞

綾の照葉樹林(鶴町)の森の保護と復元を目指す、スギの間伐を進める「てるはの森の会」を運営するNPO法人(高崎文化本館)が、高崎市、石田達也代表理事)が、環境省が公募した事業型の環境NPOなどを支援するモデル実証事業に採択され、間伐材を活用した木工製品の販売に乗り出す。石田代表理事は「間伐材の活用で持続的な事業が可能となり、森の復元につながる」と期待する。(山下世彦)

綾の照葉樹林復元活動発展

現在、試作品を製作中で、11月上旬の「東京おもちゃ美術館」や、来週1月に高崎市のアートセンターで開く同美術館のイベントなどに出品する。

この環境省の事業は、公的資金に依存しがちな多くの環境関連のNPOや公益企業、民間企業が自立したビジネスができるよう、モデルづくりを支援する目的で始まった。今年8月、30件の応募のうち1件が採択された。同本館の事業は、間伐材を活用した商品の開発販売で自主財源を確保し、綾の照葉樹林の保護・復元を推進するといった内容となっている。

事業を担う「てるはの森の会」

スギの間伐材で試作されたポスター用の木枠(いずれも「てるはの森の会」提供)

NPO事業を国モデル採択 放置、もったいない

は九州森林管理局、県、綾町、日本自然保護協会(東京)と組織した「綾の照葉樹林プロジェクト」の事務局を務め、2010年の発足以来、様々な活動を実施している。年々、ボランティアと綾町内の照葉樹林が広がる地域で、人工林のスギ、ヒノキの間伐が続いている。林内に日光を入れることで照葉樹の自然発生を促すのが狙いだ。

事務局の相馬英治さん(51)は「間伐したもの、運び出すにはコストもかかり、活用方法もないため放置され、ずっと溜んできた。参加するボランティアも『もったいない』『何かに使えないのか』と同じ気持ちだった」という。

事業の採択を受け、さっそく地元デザイナーや木工業者と連携し、ポスターパネルやパネルスタンドの試作品を製作中。各地のイベントに出品し、来場者にアンケートを実施して県内外の消費者の反応を摸るという。製品はオンラインアンケートからのアドバイスや事業の進捗を受けた後、来年4月から販売が開始される。

相馬さんは「間伐材の木工製品を賣うことが照葉樹林の保護や復元につながる。こうしたことをアピールすること、事業が軌道に乗ればうれしく」と話している。

新聞記事

(朝日新聞 2011.02.20)

綾・照葉樹林復元プロジェクト

間伐材パネル商品化

宮崎市のNPO法人・宮崎文化本舗(石田達也理事長)は、綾町の間伐材を使ったパネルとパネルスタンドの商品開発に取り組んでいる。既に試作品が完成、来年度の発売を目指す。同法人は、官民

宮崎市のNPO法人・宮崎文化本舗(石田達也理事長)は、綾町の間伐材を使ったパネルとパネルスタンドの商品開発に取り組んでいる。既に試作品が完成、来年度の発売を目指す。同法人は、官民

来年度
発売へ
収益一
部事業
費に

を拡大して
きたい」と
している。

5者が同町で展開する照葉樹林の保護・復元事業「綾の照葉樹林プロジェクト(綾フロ)」で事務局・てるはの森の会を運営。パネルなどの販売収入の一部は、綾フロの事業費に充てられ、森づくりに役立てる。2005年から始まった綾フロでは、照葉樹林を復元するため、スギなどの人

宮崎文化本舗が間伐材を使って商品化を目指すパネルスタンドの試作品



2011.02.20
約73センチ。価格は今後決めるが、森林資源を有効活用している点などをアピールし、環境問題に取り組むNPO法人や官公庁、イベント会社などに売り込んでいく計画だ。

同法人では今後も新商品の開発を続けるという。「効率的な販売方法や効果的なPRなどを考え、販路

アイディア募集 てるはの森の会 CANPAN ブログ

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

カテゴリアーカイブ

- てるはの森の会 (66)
- 綾プロジェクト (63)
- ガイド (44)
- NPO (6)
- イベント (9)
- 成果物 (1)
- ネイチャージム (2)
- 雑感 (15)
- 視察 (1)
- ふれあい調査 (3)
- 地域づくりWG (3)
- 綾町 (1)
- 国際照葉樹林サミット (4)
- げんだいの森 (2)
- 特定非営利活動法人 宮崎文化本舗 (1)

最新記事

- 間伐作業 中止のお知らせ
- 地域づくりWG 2月3日
- 間伐作業ボランティア募集!
- 綾プロジェクト説明会
- 綾の町が真っ白に...
- 新燃岳の降灰が...
- 生涯学習で川中の森へ
- 木育キャラバン
- 仕事始めです。
- 今年もあと4日...

最新コメント

- ドングリ
⇒ 12月12日の猪八重溪谷 (12/22)
- 黒木康夫
⇒ 12月12日の猪八重溪谷 (12/18)



間伐後、そのままに放置されているスキ。宮崎文化本舗の事業では有効利用につなげたい考え(てるはの森の会提供)

伐材使い製品開発

環境省モデル事業選定

「石田 法人は、宮崎県有数の照葉樹林を保有する。伐採した木材を、木材加工業に提供し、木材製品を開発する。また、伐採した木材を、木材加工業に提供し、木材製品を開発する。また、伐採した木材を、木材加工業に提供し、木材製品を開発する。」

石田理事長は「間伐材を生かす仕組みづくりを進めて、綾プロジェクトにもつなげたい」と話していた。

そこで、皆様にお願ひがあります。

木製品製作のアイディアを募集します。
こんなものあったら良いね、作ってほしい、とご意見があればお知らせください。
たくさんのアイディアをお待ちしています！

《 てるはの森の会 》
TEL 0985-35-7288 / FAX 0985-35-7289
E-mail:teruha@miyazaki-catv.ne.jp

パンフレット案

日本に残された最後の広大な照葉樹の森。宮崎県綾町一



宮崎県の中央部に位置する綾川流域に残された、日本最大規模の原生的な照葉樹林。

約 2500ha。この森を原

生的に保護するとともに、分断された照葉樹林帯を、緑の回廊として繋ぐー 壮大な計画が進められています。



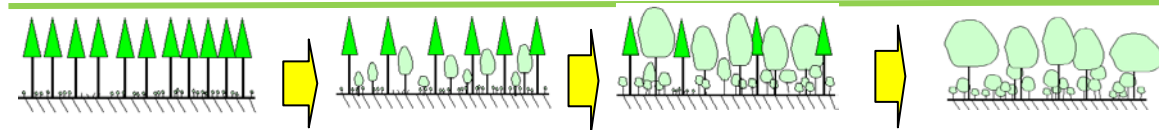
○照葉樹林とは、冬でも落葉しない広葉樹で、葉の表面のクチクラ層（角質の層）が発達した光沢の強い深緑色の葉をもつものです。

植林しないー復元方法

スギやヒノキ(針葉樹)を間伐し、林内に光を入れることにより、照葉樹を自然に芽吹かせ、この照葉樹が大きく成長したら、残りのスギやヒノキを全て伐り、元の照葉樹林に近いものに復元する。

復元作業で伐られた間伐材を製品の一部に使用しています。

森の復元・保護のために「綾の照葉樹林プロジェクト」



九州森林管理局・宮崎県・綾町・日本自然保護協会・てるはの森の会の5者で協定を結び、官・学・民 一体で森の保護・復元の取組が行われています。

ロゴ案

